

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-86073

(43) 公開日 平成10年(1998) 4月7日

(51) Int.Cl.⁶

B 2 5 B 15/02

識別記号

F I

B 2 5 B 15/02

審査請求 未請求 請求項の数1 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平8-240596

(22) 出願日 平成8年(1996) 9月11日

(71) 出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72) 発明者 伊賀 和夫

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(72) 発明者 久松 強

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

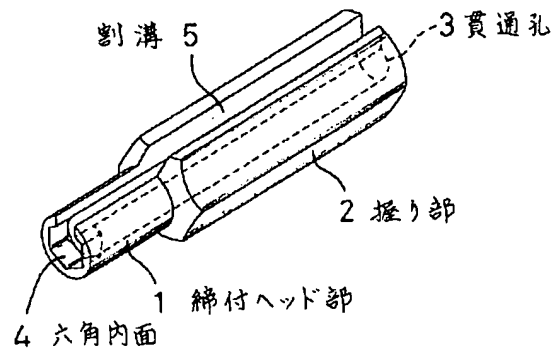
(74) 代理人 弁理士 松村 博

(54) 【発明の名称】 接栓締付具

(57) 【要約】

【課題】 複数個配置された接栓の間隔が狭い場合でも、接栓の締付が容易で、作業性のよい接栓締付具を提供する。

【解決手段】 締付ヘッド部1と、この締付ヘッド部1の一端から軸方向に延びた握り部2とから構成されており、締付ヘッド部1および握り部2の全長にわたって、少なくとも締付ヘッド部1の端部付近に接栓に嵌合する六角内面4を有する軸方向の貫通孔3と、外部と貫通孔3との間で、接栓に接続された同軸ケーブルを出し入れ可能な割溝5とを備えている。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 締付ヘッド部と、該締付ヘッド部の一端から軸方向に延びた握り部とからなり、前記締付ヘッド部および握り部の全長にわたって、少なくとも前記締付ヘッド部端部付近に接栓に嵌合する六角内面を有する軸方向の貫通孔と、外部と前記貫通孔との間で、接栓に接続された同軸ケーブルを出し入れ可能な割溝とを備えていることを特徴とする接栓締付具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、同軸ケーブルを接続するための接栓を締め付ける工具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、この種の締付具として、図3に示したように、一般にレンチ(スパナ)7が使用されていた。即ち、同軸ケーブル8の端部を接栓9に挿入し、レンチ7で接栓9を回すことにより締付、固定する。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記のようにレンチを用いて締め付ける方法では、接栓が上下左右に複数個配置されていてそれらの間隔が狭い場合、レンチの回転許容範囲が小さく、小刻みな締付動作の繰返しになるため、作業性が悪いという問題があった。

【0004】本発明は、上記問題点を解決するもので、複数個配置された接栓の間隔が狭い場合でも、接栓の締付が容易で、作業性のよい接栓締付具を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明の接栓締付具は、締付ヘッド部と、この締付ヘッド部の一端から軸方向に延びた握り部とからなり、締付ヘッド部および握り部の全長にわたって、少なくとも締付ヘッド部の端部付近に接栓に嵌合する六角内面を有する軸方向の貫通孔と、外部と貫通孔との間で、接栓に接続された同軸ケーブルを出し入れ可能な割溝とを備えた構成とする。

【0006】この構成によれば、接栓に接続された同軸ケーブルを、割溝を通して内部の貫通孔に入れ、締付ヘッド部の六角内面を接栓に嵌合させ、握り部をもつて回転させることにより、接栓を締め付ける。これにより、複数個配置された接栓の間隔が狭くても、小刻みな締付動作をせずに容易に締付が可能になる。

【0007】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態について詳細に説明する。図1は、本発明の一実施の形態を示

2

したものである。1は締付ヘッド部、2はこの締付ヘッド部1の一端から軸方向に延びた握り部、3は締付ヘッド部1および握り部2の全長にわたって軸方向に通った貫通孔で、その少なくとも締付ヘッド部1の端部付近に接栓に嵌合する六角内面4を有している。5は外部と貫通孔3との間で接栓に接続された同軸ケーブルを出し入れ可能な開口を持つ割溝である。

【0008】次に、本実施の形態における締付動作について図2を参照して説明する。まず、接栓9に接続された同軸ケーブル8を、割溝5を通して貫通孔3内に入れる。次に、締付ヘッド部1の六角内面4を接栓9に嵌合させ、握り部2をもつてA方向に回転力を加える。これにより接栓9を容易に締め付けることができる。このとき、同軸ケーブル8は、貫通孔3内にあるので回転力は加わらず、振れることはない。接栓9の締付終了後は、六角内面4を接栓9から外し、割溝5を通して同軸ケーブル8を外部へ取り出すようにする。なお、B方向に回転力を加えれば、接栓9を緩めることができるのは言うまでもない。

【0009】以上のように構成された本実施の形態によれば、上下左右に複数個の接栓9が配置され、それらの間隔が狭い場合でも、握り部2の部分では同軸ケーブル8を曲げてスペースを広くとることができるので、容易に締付が可能になる。また、握り部2に設けた六角形の外周を利用すれば、レンチ等を用いて強く締め付けることもできる。

【0010】なお、締付ヘッド部と握り部との境界は、図1に示す段付きのように必ずしも明確に区別できる形状でなくてもよい。

【0011】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、接栓が上下左右に複数個狭い間隔で配置されている場合でも、小刻みな締付動作で締め付ける必要はなく、同軸ケーブルが接続されている接栓を一般のドライバと同様な締付動作で容易に締め付けることができるという効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施の形態における接栓締付具の斜視図である。

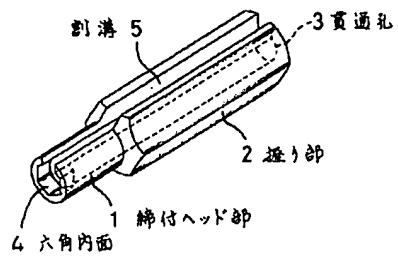
【図2】本発明の一実施の形態における接栓締付具の使用状態を示す斜視図である。

【図3】従来の接栓締付方法を示す斜視図である。

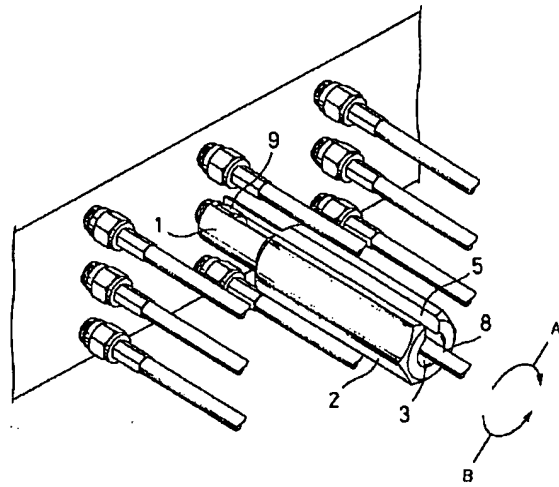
【符号の説明】

1…締付ヘッド部、 2…握り部、 3…貫通孔、 4…六角内面、 5…割溝、 8…同軸ケーブル、 9…接栓。

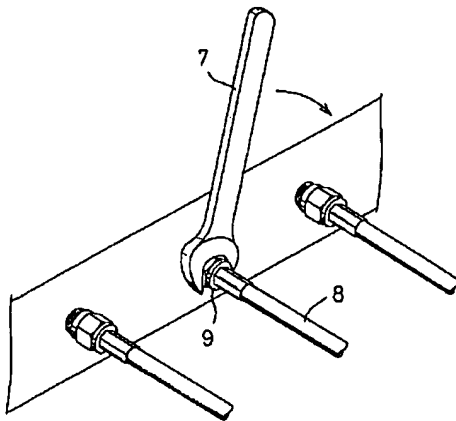
【図1】



【図2】



【図3】



PAT-NO: JP410086073A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 10086073 A

TITLE: CONTACT PLUG TIGHTENING DEVICE

PUBN-DATE: April 7, 1998

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

IGA, KAZUO

HISAMATSU, TSUYOSHI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME COUNTRY

MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD N/A

APPL-NO: JP08240596

APPL-DATE: September 11, 1996

INT-CL (IPC): B25B015/02

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a contact plug tightening device which easily tighten a contact plug and assures a good workability even when a space between a plurality of contact plugs is small.

SOLUTION: The captioned contact plug tightening device is composed of a tightening head part 1 and a **gripping** part 2 extended from one end of the tightening head part 1 in the axial direction, and comprises, over the overall length of the tightening head part 1 and the **gripping** part 2, an axial through hole 3 which has, in the vicinity of at least the end part of the tightening head part 1, a **hexagonal** inner surface 4 which fits to the contact plug and a split groove 5 which permits, between the outside and the through hole 3, taking in and out of a coaxial **cable** connected with the contact plug.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO